

古代のムラと人びとのくらし

奈良時代ごろにはすでに名取の地も国の支配下となり、人びとは政治のしくみに組みこまれ、税を納めるなどの役目を負いました。前野田東遺跡からは平安時代に役所の仕事にもかかわった有力者のすまいのあとと、農民たちの住居のあと

や^{て っ き}鉄器づくりの家が見つかっています。

当時は仏教を広めるために各地にお寺が建てられました。^{かさしまはいじあと}笠島廃寺跡からは^{とう}塔があったとみられる高まりと屋根に^{かわら}ふかれた瓦などがみつかり、お寺のあとではないかと言われている。



年代

時代

おもなできごと おもな遺跡と人

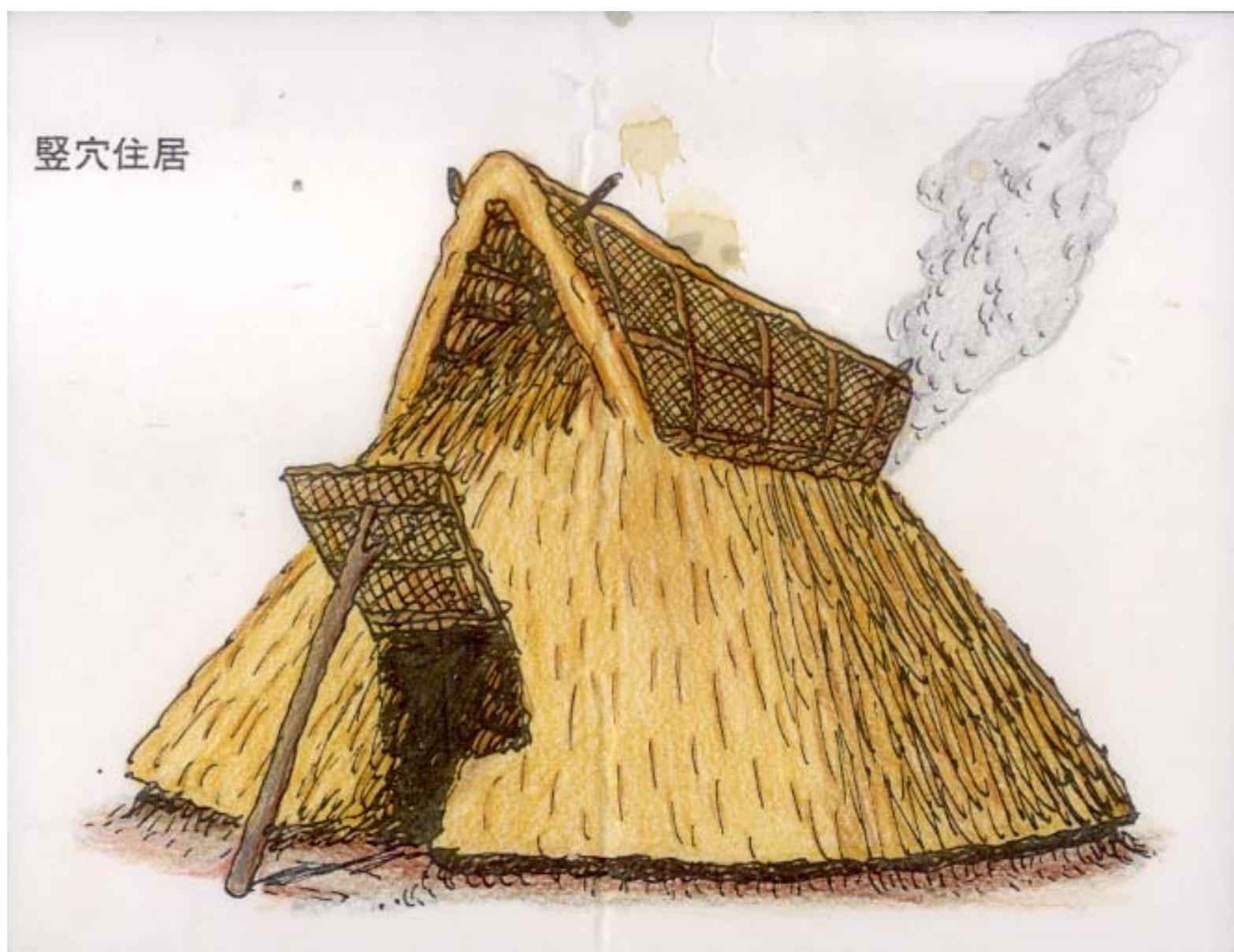
現在	約500年前	約1千年前	約2千年前	約1万年前	約2万年前
2000	1500	1000	500	AD / BC	

鎌倉 室町 戦国 安土桃山 江戸	明治 大正 昭和 平成	飛鳥 奈良 平安	古墳	弥生	縄文	旧石器
------------------------------	----------------------	----------------	----	----	----	-----

近代国家へ	武士の時代	天皇と貴族の時代	クニから国へ	ムラからクニに	自然とともに生きる	
農村から住宅地へ	奥州街道がつくられる	山ぞいの東街道にぎわう	東山道がつくられる	米づくりをはじめめる	自然食のくらし	氷河時代を生きる
正岡子規 道祖神路 旧中沢家住宅 松尾芭蕉	宗久	西行	前野田東遺跡 笠島廃寺跡 道祖神社 藤原実方のお墓	飯野坂古墳群 雷神山古墳 十三塚古墳 名取大塚山古墳	十三塚遺跡 泉遺跡	野田山遺跡



まえの だひがしいせき
前野田東遺跡のすまいのあと
四角に区切られたなかに建物あとが並んでいる



竪穴住居

たて穴住居のようす(想像図)
カマドから煙が出ているので、食事の準備中か



ま え の だ ひ が し い せ き
前野田東遺跡のたて穴住居あと
鉄器づくり(鍛冶)の仕事がおこなわれていた



近くに埋められた鉄刀と土器



かさしまはいじ
笠島廃寺跡の高まりと瓦

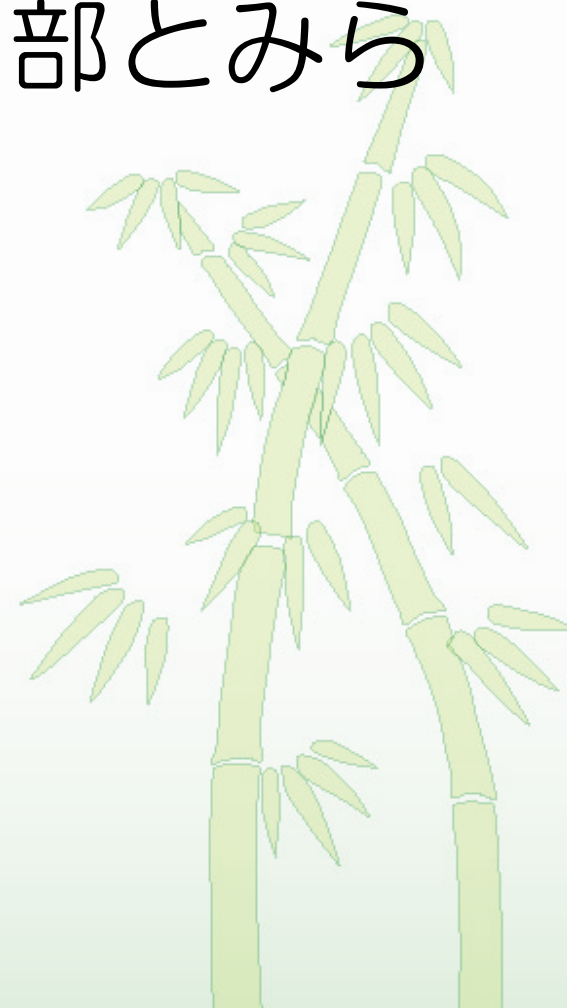
山ぞいの古道 東街道

あずまかいどう

東街道の道すじと道のあと

愛島の山ぞいには、古くから東街道と呼ばれる主要な道路がありました。岩沼市の千貫せんがんから愛島の北目きため、笠島かさしま、塩手しおてを通り、高館くまのどうの熊野堂から名取川を渡って

仙台、多賀城にいたる道です。時代とともに道すじは変わっていますが、道祖神どうそじん社の近くにはいまもその道の一部とみられるあとが残っています。



年代

時代

おもなできごと おもな遺跡と人

現在	約500年前	約1千年前	約2千年前	約1万年前	約2万年前
2000	1500	1000	500	AD / BC	

平成	昭和	大正	明治	江戸	鎌倉	室町	戦国	安土桃山								旧石器
----	----	----	----	----	----	----	----	------	--	--	--	--	--	--	--	-----

近代国家へ		武士の時代		天皇と貴族の時代 クニから国へ ムラからクニに		自然とともに生きる	
農村から住宅地へ		山ぞいの東街道にぎわう		氷河時代を生きる		野田山遺跡	
奥州街道がつくられる		西行		大きなお墓をつくる		飯野坂古墳群	
松尾芭蕉		宗久		米づくりをはじめめる		雷神山古墳	
旧中沢家住宅				東山道がつくられる		十三塚古墳	
道祖神路				税をおさめる農民のくらし		名取大塚山古墳	
正岡子規				前野田東遺跡		泉遺跡	
				笠島廃寺跡		十三塚遺跡	
				道祖神社		大木戸貝塚	
				藤原実方のお墓		宇賀崎貝塚	
						泉遺跡	

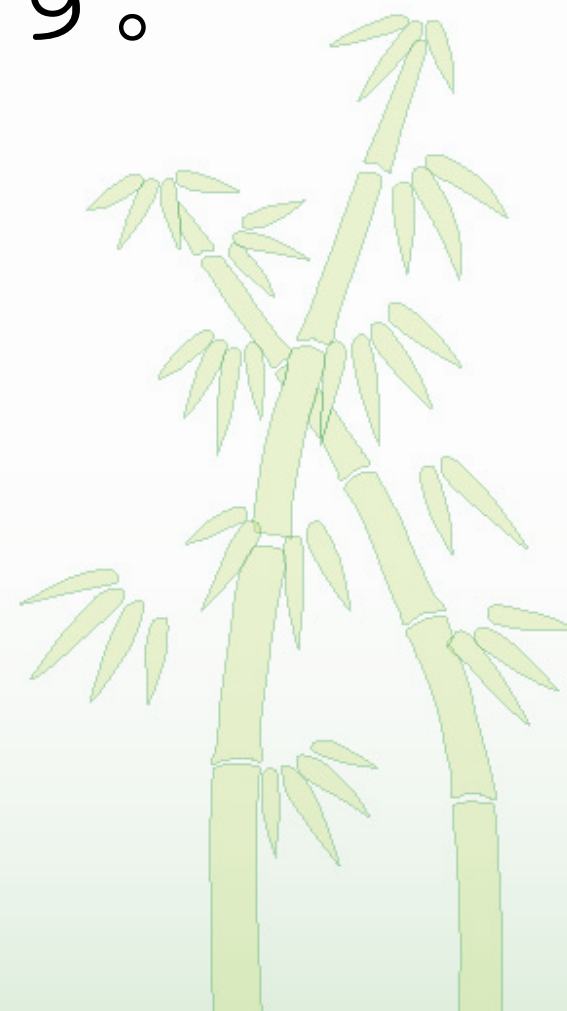


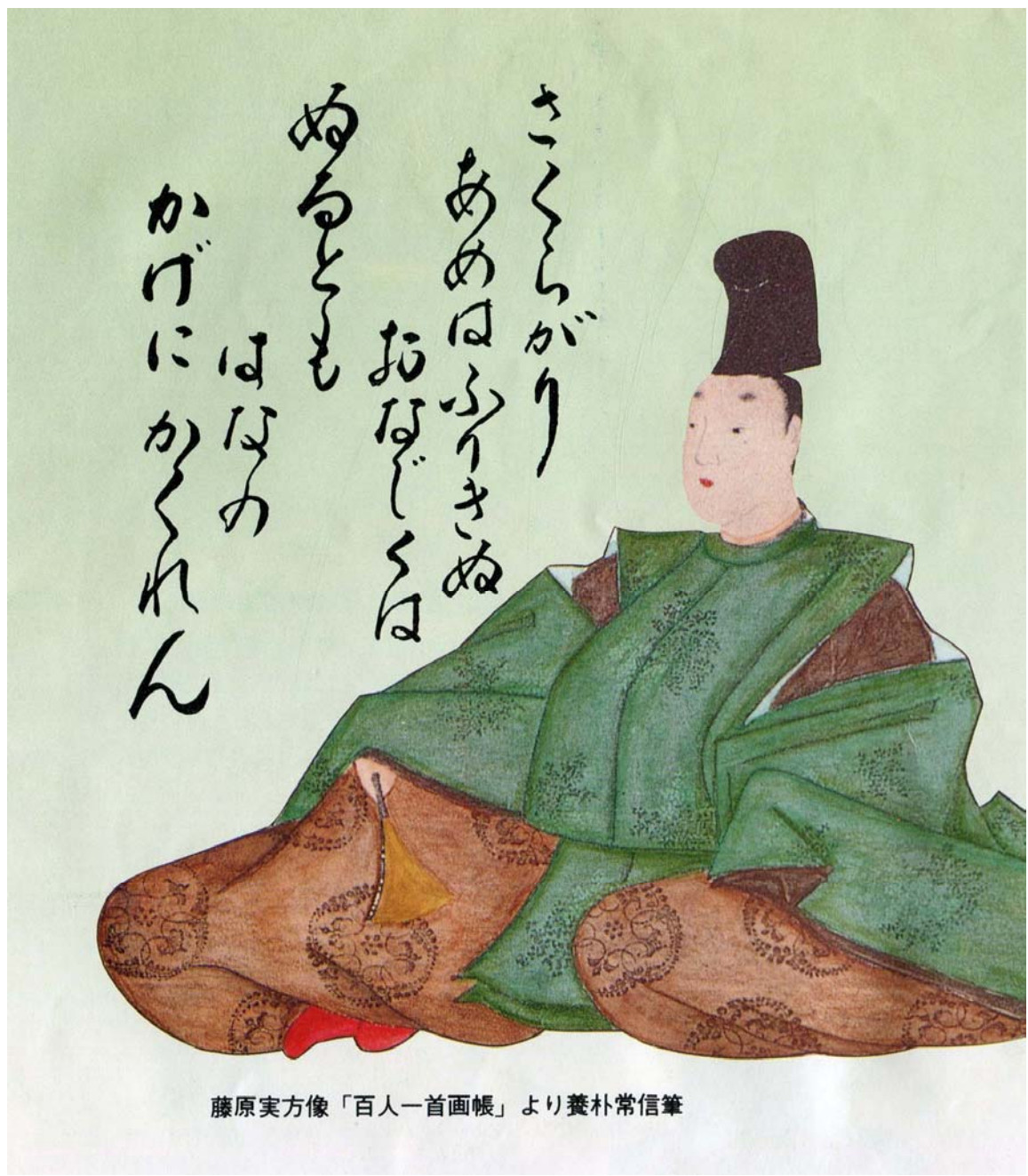
奥州名所図会に描かれている道祖神社や実方のお墓
地図のどのあたりかわかりますか(奥州名所図会は江戸時代の作)

この地で命を落とした藤原実方

いまからおよそ千年前のこと。貴族で
あり、歌人だった実方は陸奥^{むつ}の国守^{こくしゅ}とし
て多賀城に來ていました。ある日、実方^{さねかた}
は道祖神社^{どうそじんじゃ}の前を通るときに、神前^{しんぜん}だか
ら馬から下りて通るようにとの忠告を無

視し、馬に乗ったまま通ったために神の
怒りにふれ落馬し、それがもとでこの地
で亡くなったと伝えられています。





藤原実方像「百人一首画帳」より養朴常信筆

ちゅうじょうふじわらさねかたあ そん
中 将 藤原実方朝臣

美貌と風流を兼ね備えた貴公子と言われる(絵は「百人一首画帳」より)



愛島塩手の山林にある実方のお墓
お墓の近くには実方ゆかりの地名が残されている

実方を偲んでお墓に訪れた人

し　お　て

塩手の山林に葬られたと伝えられてい

る実方のお墓には、その後によくの人が

さいぎょうほう

訪れています。平安時代の末には西行法

し

そうきゅう

師、南北朝時代には宗久、江戸時代には

しょうどう　ば　ねん

まさおか　し　き

松洞馬年、明治時代には正岡子規などで、

ちゅうこさんじゅう

で、その多くは歌人たちです。中古三十

ろっかせん

六歌仙の一人として活躍し、悲運の死を

とげた藤原実方ゆかりの地は、歌人たち

にとっては特別なところだったようです。





朽ちもせぬそのなばかりをとどめおきて
枯野のすすきかたみにぞ見ゆ

さいぎょうほうし
西行法師の歌
西行はみちのくへの旅の途中に立ち寄った(「山家集」)



笠島はあすの草鞋のぬき処

しょうどうばねん
松洞馬年の句
馬年は仙台の武士で俳人



かたみさへ今はなつのしの薄

まだ穂にいでぬ風の色かな

まさおかしき

正岡子規の歌

子規 26 歳の時、芭蕉^{ばしやう}の足跡をたどる旅行中に立ち寄った

(写真は仙台文学館発行「正岡子規 みちのくの旅～はて知らずの記」より)

館腰をまっすぐ 通る奥州街道

街道のいま・むかし

江戸時代のはじめに江戸とをつなぐ道
として奥州街道おうしゅうかいどうが整備されました。増田
から岩沼までは、縄文時代に海が押しよ

せてできたまっすぐな砂の高まりを利用
して造られています。館腰あたりの街道
のようすは江戸時代中ごろに描かれた絵
え
ず図からわかります。同じ場所のいまの写
真とくらべてみてください。



年代

時代

おもなできごと おもな遺跡と人

現在	約500年前	約1千年前	約2千年前	約1万年前	約2万年前
2000	1500	1000	500	AD / BC	

平成	昭和	大正	明治	江戸	安土桃山	戦国	室町	鎌倉	平安	奈良	飛鳥	古墳	弥生	縄文	旧石器
----	----	----	----	----	------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

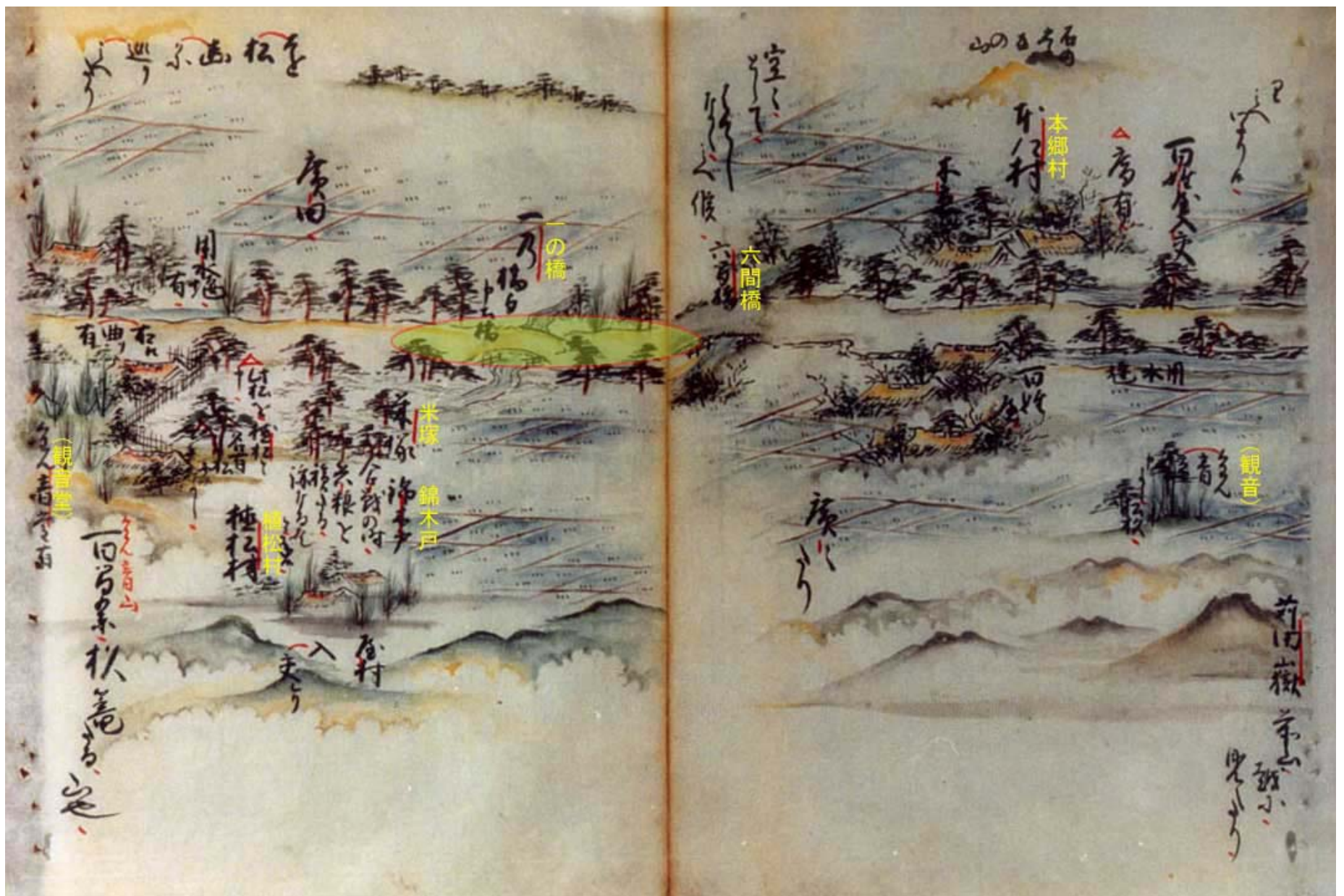
近代国家へ	武士の時代	天皇と貴族の時代	クニから国へ	ムラからクニに	自然とともに生きる			
農村から住宅地へ	奥州街道がつくられる	山ぞいの東街道にぎわう	税をおさめる農民のくらし	東山道がつくられる	大きなお墓をつくる	米づくりをはじめめる	自然食のくらし	氷河時代を生きる
正岡子規	松尾芭蕉 旧中沢家住宅 道祖神路	西行	前野田東遺跡 笠島廃寺跡 道祖神社 藤原実方のお墓	宗久	飯野坂古墳群 雷神山古墳 十三塚古墳 名取大塚山古墳	十三塚遺跡 泉遺跡	大木戸貝塚 宇賀崎貝塚 泉遺跡	野田山遺跡



おうしゅうかいどう
奥州街道の道すじマップ



道しるべ 道祖神路(江戸時代)
一面に芭蕉の「笠島はいづこ草月のぬかり道」の句がある



江戸時代中ごろの館腰地区
まん中の道が奥州街道



撮影場所 ② 植松西向・中向
一の橋あたり



撮影場所 ① 本郷 西六軒
本郷村六軒橋あたり

館腰地区のいま・むかし
絵図は江戸時代中ごろに描かれた(「増補行程記」)



江戸時代中ごろの館腰地区
まん中の道が奥州街道

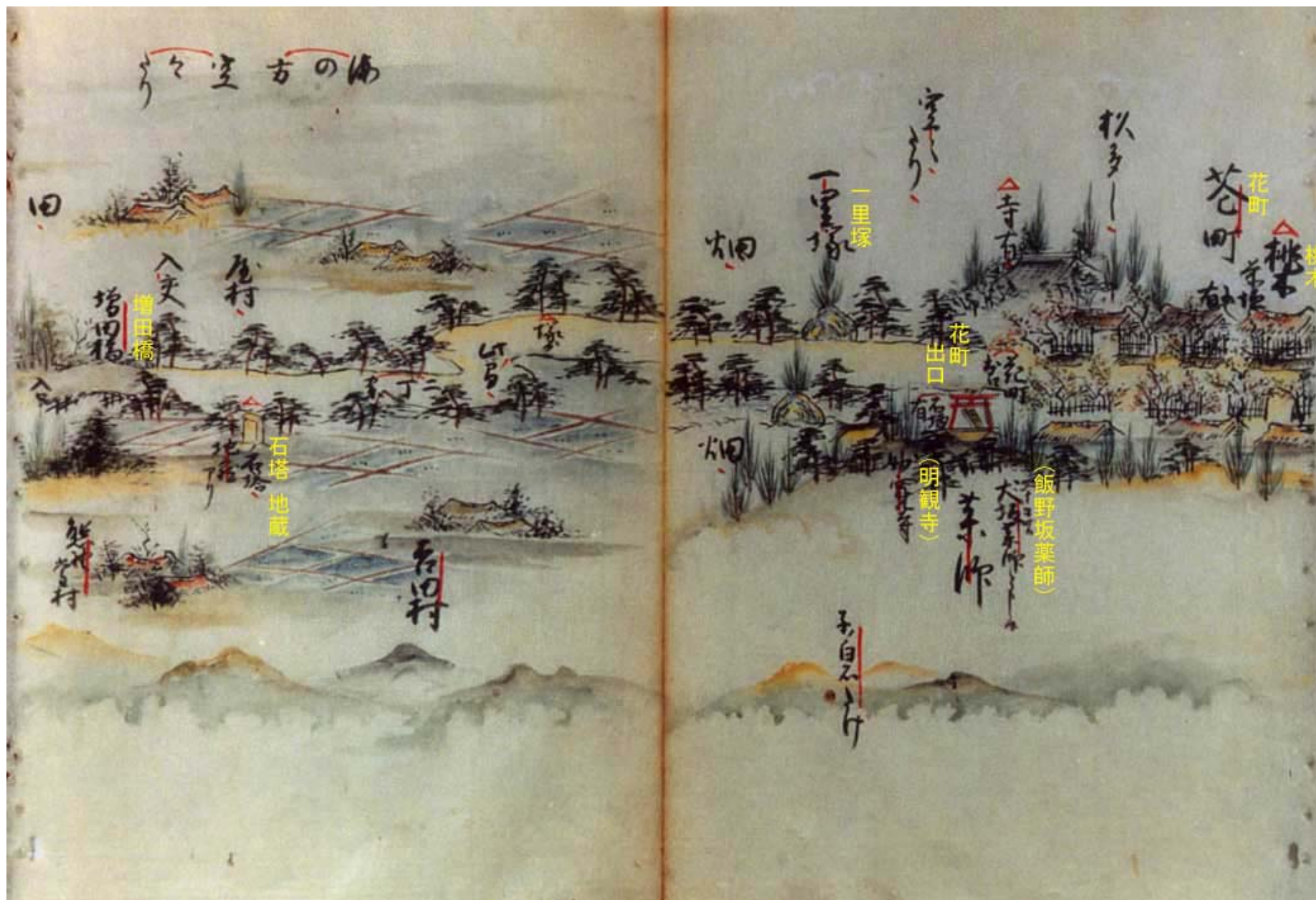


撮影場所 ④ 植松一丁目
植松橋あたり



撮影場所 ③ 植松四丁目
甘酒茶屋あたり

館腰地区のいま・むかし
絵図は江戸時代中ごろに描かれた(「増補行程記」)



江戸時代中ごろの館腰地区

まん中の道が奥州街道



撮影場所 ⑥ 飯野坂一丁目
増田橋あたり

撮影場所 ⑤ 飯野坂三丁目
一里塚あたり

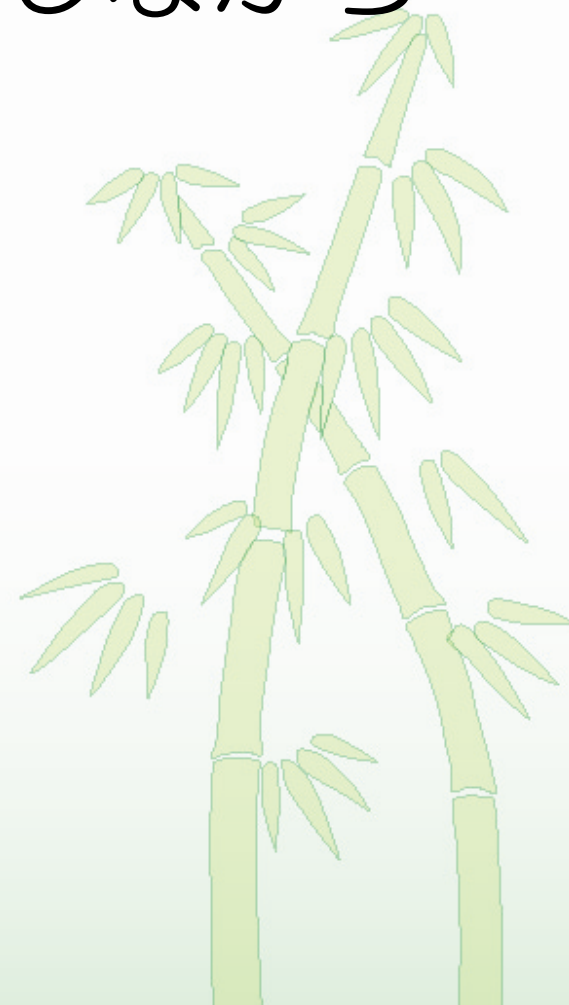
館腰地区のいま・むかし

絵図は江戸時代中ごろに描かれた(「増補行程記」)

街道を歩いた芭蕉ばしょうと伊能忠敬いのただたか

街道は時には参勤交代さんきんこうたいのための大名行列も通りますが、普段はいろいろな旅人たちも往来しました。俳人として有名な松尾芭蕉まつおばしょうも館腰を通り仙台に向かったことや、植松で句を詠んだことが『奥の細道おくほそみち』

に記されています。また、正確な日本地図をはじめて作ったことで知られる伊能忠敬いのただたかは、二度、この街道を測量しながら通っています。



鐙摺・白石の城を過ぎ、笠島の郡に入れば、藤の中将実方の塚はいづくのほどならんと人に問へば、「これより遙か右に見ゆる山際の里を蓑輪・笠島といひ、道祖神の社・かたみの薄今にあり」と教ふ。この比の五月雨に道いとあしく、身疲れ侍れば、よそながら眺めやりて過ぐるに、蓑輪・笠島も五月雨の折にふれたりと、

笠島はいづこ皐月のぬかり道

(『奥の細道』より)

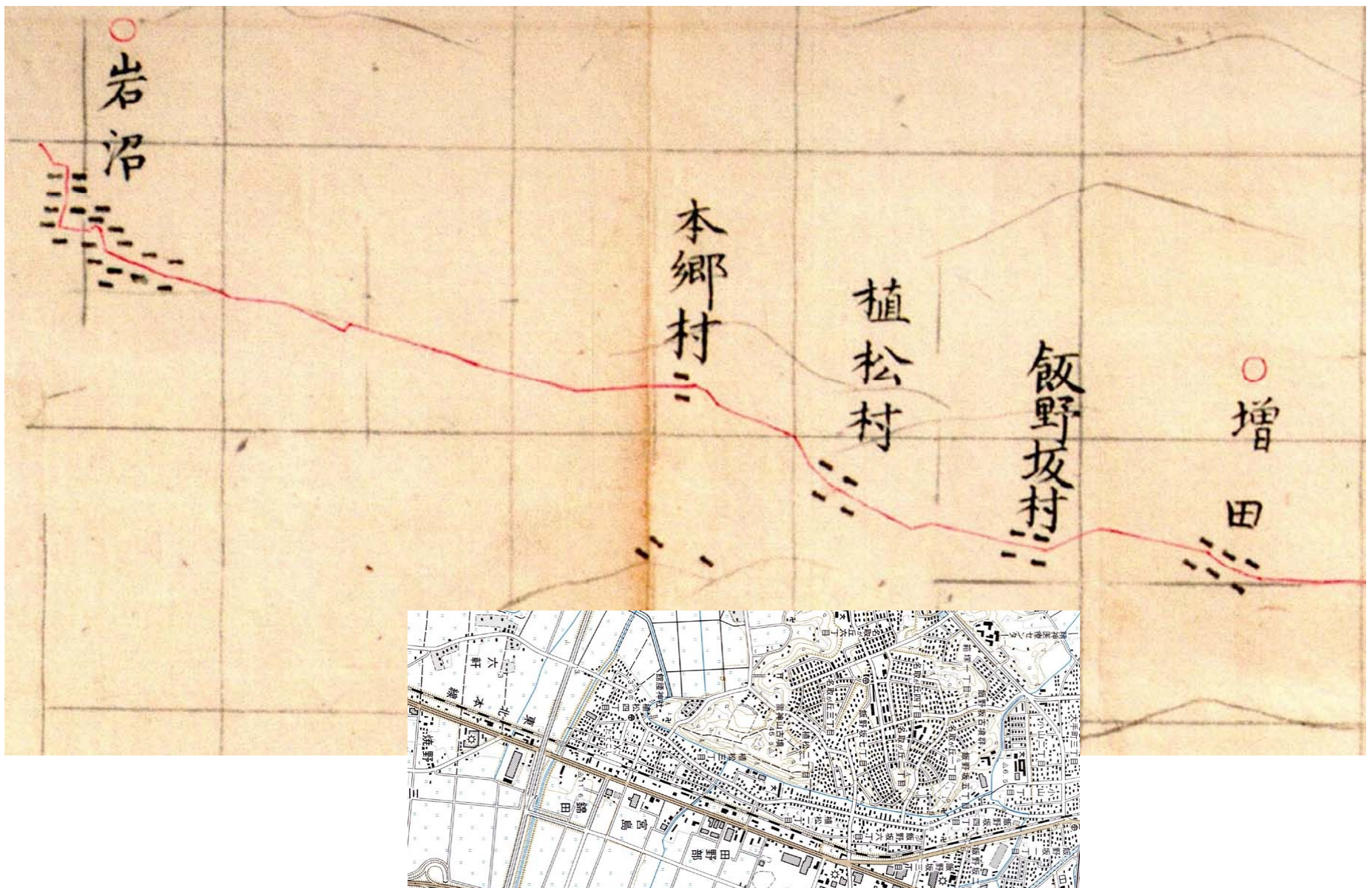
まつおばしろう
松尾芭蕉と『奥の細道』の一文
悪路や旅の疲れで実方のお墓参りをあきらめた



土地の人に実方のお墓への道をたずねている芭蕉



旅をする芭蕉(左)と弟子の曾良



いのうちず たてこしちず
伊能地図といまの館腰地図
街道の曲がり具合や間隔はいまの地図と変わらない



いのうただたか
伊能忠敬